

令和2年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472603099	事業の開始年月日	平成17年12月1日
		指定年月日	平成17年12月1日
法人名	医療法人社団仁和会		
事業所名	グループホームひばり		
所在地	(〒252-0244) 神奈川県相模原市中央区田名2750-14		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和3年2月16日	評価結果 市町村受理日	令和3年7月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人の能力に応じた支援ができるよう利用者様と職員が協力しながら生活しています。のんびりとした環境で近隣の方々との交流も盛んです。
--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和3年2月24日	評価機関 評価決定日	令和3年5月19日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<b>【事業所の概要】</b> この事業所は、JR橋本駅南口からバスで12分の「葛輪」バス停下車、徒歩7分の、幹線道路から少し入った住宅地に立地している。建物は鉄筋2階建てで、エレベーターが設置され、バリアフリー設計になっている。1、2階のユニットにはそれぞれ玄関があり、独立した構造になっている。 <b>【利用者の主体性を尊重した支援】</b> 「触れ合い支え合い 認め合い 安らげる生活の場」という理念を掲げ、職員は、利用者を一人の人間として尊重し、その意思を大切にしている。自立の利用者が多く、利用者のできることは、時間をかけ、楽しみながら取り組めるように、見守りを重視し、利用者自身の力でやり遂げることができるように努めている。利用者は食事の下膳や食器拭きをしたり、洗濯ものを畳んだり、役割を分担して主体的に行動している。 <b>【法人資源の強みを生かした支援】</b> 法人は、市内に病院、介護老人保健施設、グループホーム3事業所を運営している。事業所の協力医療機関は、法人が経営する医療機関で、月に1回の往診があり、看護師とは緊急時などいつでも連絡が取れる安心な医療体制を構築している。法人経営の3グループホーム事業所は、人事、運営、研修等で連携して、法人内で定期的に人事異動が行われている。介護老人保健施設とは合同研修や外出、通院の際にワゴン車と運転手を借りるなど協力体制ができています。
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームひばり
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
		○	3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		○	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		○	4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
		○	4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		○	4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
		○	4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
		○	3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	グループホームひばり
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所の壁に貼り、朝唱和している。実践できるよう心掛けている。	理念は、開設時に管理者と職員で作成したもので、事務所などに掲示して、朝の引継ぎ時に唱和している。管理者は、「助け合い・支え合い」を重視し、掃除や洗濯ものを畳む、食事の後片付け、など、利用者の主体性に任せた支援を実践している。職員は見守りを重視し、利用者自身でやり遂げることが出来るように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の前は自治会の行事に参加していた。	葛輪自治会に加入している。夏祭りやどんど焼きなどが新型コロナウイルス対策で中止となっているが、神社に奉納された野菜や果物などのお供え物を分けて頂いた。太鼓やアコーディオンの演奏、手品などのボランティア活動、地域包括支援センター主催の「おしゃべりカフェ」なども中止となっている。地域との付き合いができない分、事業所内で、誕生日会や節分、クリスマス会、敬老会などの行事を楽しんでいる。	新型コロナウイルスの終息時において、以前交流のあった中学校、保育園児などとの再交流を図ることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の前は運営推進会議で理解や支援の方法を話していたが今は活かしていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議は実施されているが、内容はわからない。	運営推進会議は、年6回開催している。コロナ禍のため文章を送付して、事業所の運営状況を報告し、利用者家族などから意見や要望などの収集に努めている。家族全員に文章を送付して、全ての家族の参加を促している。参加メンバーは、家族代表、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、管理者などで、議事録は相模原市高齢政策課に郵送している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活支援課には日ごろから連絡を取っているが、密ではない。	相模原市高齢政策課が窓口になっており、電話で相談をしている。生活保護費を受けている利用者が多く、生活支援課の職員と連絡を取っている。相模原市グループホーム協議会に登録しているが、コロナ禍で中止となっている。市から消毒液の支給を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員を通して学んでいる。玄関の施錠は夜間行っている。	身体拘束をしない旨を、運営規程や重要事項説明書に明記している。法人が「身体拘束廃止・虐待発見マニュアル」を作成している。研修は3グループホーム合同で3ヶ月毎に相談員を含めて、法人内の老人保健施設で実施している。身体拘束廃止委員会は3ヶ月毎に、介護老人保健施設や3グループホーム事業所のメンバーが参加して開催している。会議の内容について議事録を作成し、フロア会議で事例中心に検討し、職員間で共有している。玄関やフロアのカギは開放しているが、夜間は安全のため玄関のみ施錠している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学んでいる。特に言動には気を付けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はない。制度を利用している人はいるので理解は深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関することは相談員が行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱はあるが活用されていない。来所した時に意見・要望があれば伺い反映できるよう努力している。	家族には電話で個別に連絡し、意見や要望を聞いている。要介護認定更新の手続きの際などに、個別に要望や気になる点などを伺い対応している。オンライン面会を1月より実施しているが、利用者が十分に理解できず、家族から対面による面会の要望が上がっている。家族会はあるが、現在コロナ禍で開催できていない。意見箱も設置しているが、活用されていない。毎月家族に手紙を出して、利用者の状況を報告し、状況に変化のあった場合には管理者等が、その都度電話などで伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回ミーティングがあり、意見交換を行っている。	毎朝の引継ぎ時や、毎月のフロア会議などで、職員の意見や要望を聞いている。利用者の個別の支援についての意見が多く、利用者家族とのオンライン面会用の備品や新型コロナウイルス感染症対策のための消毒液などの購入要望がある。今年度初めて12月～1月にかけて、法人による個人面談を実施した。重度化、精神疾患などの利用者に対するケアスキルが不足しているとの職員の意見があり、管理者が日常業務の中でその都度指導して、経験値やスキルアップに努めている。	職員が安心して働ける環境づくりが大切です。職員の意見や要望を把握するための継続的な職員・管理者・法人との話し合いの設定や定期的な研修の仕組みづくりを望みます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている➡1票 感じない➡1票 空欄➡5票		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修がある➡1票 管理者はスタッフケアを行っている➡1票 法人の研修がある➡1票 他空欄		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナの前は法人の別グループホームへ行く研修があったが現在は難しい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	対話を心掛け、要望や不安がないか伺い安心できる環境作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る範囲であれば耳を傾けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の話を聞き、望まれた支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができる事は見守るようになっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月様子を手紙で知らせている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が馴染みの人や場所へ行くことはない。来所があれば談笑できる場を提供している。	今までは、定期的に兄弟や後見人の来訪があったが、現在はコロナ禍で来訪はない。電話の取次ぎや手紙のあて名書きの支援などを行っている。美容室を営む自宅に定期的カットに出向いている利用者がある（現在はコロナ禍のため見合せ）。入居前からメダカを飼育していた利用者は、入居後も引き続き餌を与えて鑑賞している。水槽の清掃は職員が定期的実施している。塗り絵の好きな方には素材を提供したり、コーヒーの好きな方には、個別に購入して、馴染みのことの継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士が同じテーブルになる様に心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	フォローは行っていない。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中から希望や気持ちをくみ取るよう努めている。	自立の方が多く、自身で意見や要望を職員に伝えている。特に言葉にできない方はいないが、職員は常に利用者の表情や態度には気を付けて対応している。1対1の場面を大切にして、入浴時などに、出来る限り意見や要望を聞くように努めている。部屋に呼ばれて会話をすることもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のサマリーを参考にしたり、愛用品を継続して使えるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースを崩さないよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングや毎月のミーティングで話し合いを行っている。	生活相談員が入居前に利用者の状況などを確認している。入居前に利用者の状況を把握し、事業所に慣れること及び、相談員が確認した本人・家族の希望や医療関連情報などを踏まえて、先ずは1ヶ月間程度の介護計画を作成している。月1回のフロア会議で利用者の状況について意見交換し、3ヶ月毎にモニタリングを実施し、往診時の医師や看護師の意見を取り入れて、介護計画を見直している。介護計画は原則6ヶ月毎に見直して、変化のある時には、その都度見直している。サービス担当者会議には相談員も参加し、コロナ禍以前は他のグループホームの管理者も出席し、参考意見を聞くこともあった。サービス記録ファイルにサービス計画を一緒に入れていつでも確認できるようにして、常に介護計画と、日々のサービス記録を連動させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や送りノートを使用し情報共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で面談に制限があったため電子機器を用いてリモート面談ができるようになった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活保護の方もおり、ケースワーカーさんと相談している。また、介護タクシーも活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一回の往診あり。他にも近隣の専門病院に受診している人もいる。	利用者全員が、法人の協力医療機関の医師の往診を毎月1回受診しており、看護師が同行している。入居前からのかかりつけ医への通院は脳外科と眼科で、通院時は、それぞれ職員が付き添って対応している。法人の医療機関の看護師とは常に連絡が取れる体制になっている。歯科医が毎週治療と口腔ケアに来訪している。薬は薬局から個別に仕分けされ、管理者が確認している。服薬時には、職員2名で相互確認している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診に同行している看護師に相談し指示を仰ぐこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員が行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し、個人ファイルに入っている。	契約時に「ターミナルケア同意書」に基づいて事業所として対応できる事を説明して、同意を得ている。経口摂取ができなくなった場合には、グループホームとして対応できないことを説明している。但し、医療的な治療を望まないとの家族の意向がある場合は、医師の判断と家族同意のもとに看取りを実施し、本年度2名を看取った。法人の医療機関が協力医なので、医師や看護師との連携は密接にとっている。職員が慌てず落ち着いて看取り対応ができるよう、管理者がその都度指導し、看取りに対する知識・スキルの向上に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが訓練は受けていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は行っているが地域の連携はとれていない。	5月と11月に夜間を想定した自主避難訓練を実施している。防災機器会社の社員が参加して、消火器や通報装置の使い方の訓練をしている。消防署や地域の方の参加はなく、地域の防災訓練に事業所の職員は参加していない。「賞味期限一覧表」で米・缶詰・飲料水などを3日分備蓄している。コンロなどの熱源も確保している。	災害時には、地域の方の協力が必要です。そのため、地域の防災訓練に職員が参加したり、事業所の防災訓練に地域の方に参加してもらうなど、関係づくりを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーには配慮している。 また言葉かけには気を付けている。	管理者は、利用者に聞こえるようにと、大きな声で話す職員がいる場合には、周囲への配慮を促し、指導をしている。法人の介護老人保健施設で実施している接遇研修に参加し、研修内容を事業所内で回覧して、職員間で共有している。自立の利用者が多いため、大半の利用者は自分の判断でトイレに行くことができ、またドアも閉めている。個人情報を含む書類などは、事務所のカギの掛かるキャビネットで保管している。パソコンはパスワード管理で、管理者のみが使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を話せる人には自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな時間割はあるが、なるべく希望に添うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で洋服選びをしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みに合わせるのは難しい。 片付けや洗い物等は手伝ってもらっている。	配食業者の献立・食材により、職員が調理している。利用者の好みを聞いて、配達を中止し、職員が買い物に出かけ調理して、好みのものを食べることもある。利用者は下膳や食器拭きなどを職員と一緒にやっている。誕生日会には出前、クリスマスにはケーキ、年末には年越しそば、正月にはおせち、ひな祭りにはちらし寿司などを楽しんでいる。節分には甘納豆を袋のまま投げて、その後回収して食べて楽しんだ。利用者の体調に応じてきざみやとろみ食などの食形態にも応じている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェックシートを利用し摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと週一回の歯科往診が入っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンに合わせた介助を行っている。	トイレに一人で行くことができる方が12～13名で、他の方は排泄パターンを把握して、声をかけて、トイレ誘導している。全介助で紙おむつを使用している方が4名である。睡眠導入剤を使用している方が2名で、1名は自分でトイレに行っており、他の1名はポータブルトイレを使用している。夜間のみセンサーマットを使用している方がいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表をつけ、便秘が長引かないように対応している。(体操や下剤など)		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の曜日は決まっているが、入浴剤など使用し楽しんでもらっている。	利用者は、週2回、午前中に入浴している。毎日入浴したいなどの要望は上がっていない。今日は入りたくないなどの意向があれば、曜日や時間を替えて対応している。同性介助については初めからシフトを組んで対応している。リフトが設置されており、車椅子の方も湯船に入ることができる。浴室や脱衣所には空調設備などが設置され、ヒートショック対策がなされている。ゆず湯や菖蒲湯の楽しみの他、入浴剤を利用して温泉気分を楽しんでもらったりもしている。お気に入りのシャンプーやリンスなどを使用している方がいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に応じた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援と症状の変化に気を配っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの役割があったり趣味を楽しむ時間がある。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせて年に1~2度車で出かけている。	コロナ禍で散歩は中止している。玄関先に椅子を出して外気浴をしており、車椅子の方も参加している。毎朝の体操や、午後にはストレッチをして、出来る限り体を動かすように努めている。毎年、法人の介護老人保健施設の車と運転手を借りて外出していたが、現在は中止している。外出できない分、事業所内で、利用者は誕生日会・敬老会・クリスマス会・節分・ひな祭りなどを楽しんでいる。花見用の桜の貼り絵を現在作成中である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば代行しているが現金の所持はしていない。事務所で預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば代行している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に季節の飾りをつけたりしている。	リビングは床暖房で加湿器が備えられている。換気には十分注意し、1時間ごとに、窓を開けて換気している。キッチンからリビングや玄関などを見渡すことができ、職員が利用者の行動を見守りやすい造りになっている。トイレは各フロア3ヶ所で、車椅子対応である。清掃は利用者と職員が一緒にしており、利用者は居室や洗面台の清掃を担当している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決められた場所にこだわる事なくテレビや雑誌をみたりできるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や写真を飾っている。	照明・空調設備・カーテン・クローゼット・ベッドが備え付けられている。利用者は仏壇やテレビ、椅子、写真、ぬいぐるみ、自身の作成した作品、メダカの水槽など使い慣れた馴染みのものを持ち込んでいる。日常的な清掃は、その日の日勤職員と利用者が行っている。衣替えや備品のチェックは居室担当者が実施している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレに手すりがある。また場所が分かるように表示している。		



目標達成計画

事業所名 ぐりーんホームひばり

作成日 2021.06.10

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1の2	コロナ禍という事柄が地域の方との交流がとれている。	コロナが終息したら地域の活動に参加できるように取り組む。	市の中学校の職業体験の受け入れなどから一歩づつ取り組んでいく。	コロナの終息にともなう。
2	35の13	地域の防災訓練に参加している。災害時には地域の力を得られる。	まずは職員が参加できるようにする。	コロナ禍のため案内等が来ないのでお知らせをいれているエリアを増やしていく。	コロナ終息にともなう。自治会へのあはつは2021年中に行う。
3	11の7	職員の意見や要望を把握するための定期的な話し合いや研修の場を作る	年に1回は法人スタッフの個人面談できるようにする。	法人側には面談を行ってもらうようにする。	2年
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。